

新型コロナウイルス感染症発生下における医療提供体制及び  
検査体制の現状と課題について

秋 田 県

## 1 現状認識

### (1) 医療提供体制

- 当県では、幸い、これまでの感染者数が16名と少なかったことから、入院病床については、現在確保している105床の中で対応することができた。
- また、当県は、医師不足のほか、ICUや感染症病床の病床数など医療資源はかなり厳しい状況にあるが、日頃から、行政、医療機関、大学及び医師会等の関係団体が一体となって課題に取り組む体制が構築されていることもあり、発熱などの症状がある救急患者の搬送先が決まらない、いわゆる「たらい回し」が生じなかったほか、広域での調整も含め、感染者の入院受け入れが円滑に行われた。
- ただ、今後の第二波や第三波の発生、又は10人を超える規模のクラスター発生といった局面を想定すれば、現在の病床数では対応できなくなることから、地域バランスも考慮した上で、なお相当数の病床を確保する必要があると認識している。
- また、新型コロナウイルス感染症は軽症者や無症状者が極めて多いことから、宿泊療養施設等の確保についても、現在の16室、最大29名の体制では十分とは言えないことから、より多くの受入体制の準備を進めていると同時に、秋田市以外の地域においては病院内の休床病棟の活用を検討している。

### (2) PCR等検査体制

- PCR検査件数は、4月14日のピークにおいて63件であったが、これらの検査に当たっては、医師の総合的判断により的確に行政検査に結びつけることができたほか、スピードを重視し、原則として患者が帰国者・接触者外来を受診した当日に検体を採取して検査結果が判明したことで、迅速に入院へ移行し、患者の重症化や濃厚接触者等への二次感染を防止できたものと

認識している。

- 現在、3機関で1日当たり100件のPCR検査体制を整えているが、第二波以降の発生をにらみ、全自動検査機器の導入を含め、更なる検査体制の拡充に向けて準備に取りかかっている。
- また、検体採取については、医師会や市町村の協力を得て、既存の帰国者・接触者外来を補完する体制を整えるべく準備を進めているところであり、県土の面積の広い当県においても、身近な地域で検査が可能な体制を整備する必要があると考えている。

## 2 今後の課題

- 検体採取、PCR検査、入院治療いずれの局面においても、未知のウイルスとの戦いであることに伴う、医療従事者の確保が大きな課題となっているほか、一般県民の極めて大きな不安が人材確保の妨げとなっている。

具体的には、検体採取や宿泊療養にあたる医療人材の確保に苦慮しているほか、それらを行う場合に付近の住民から示される強い不安を解消しきれない、という問題が生じている。

この点については、是非、国において、全国民に向けて、強力かつ積極的な啓発をお願いしたいと存じている。

- また、公設診療所（PCR検査センター等）の整備に当たり、医療従事者等に対する感染時の補償等について、国としての基準や財政支援等のルールがあれば、従事者の不安を取り除くことができ、更に円滑に進められるものと考えている。